Economic Indicators

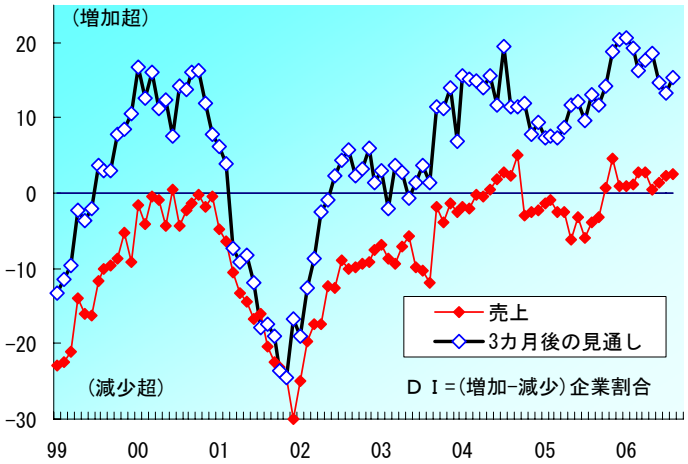
定例経済指標レポート

指標名：中小企業の業況(2006年８月)
～業況は引き続き改善傾向～

発表日2006年８月31日(木)

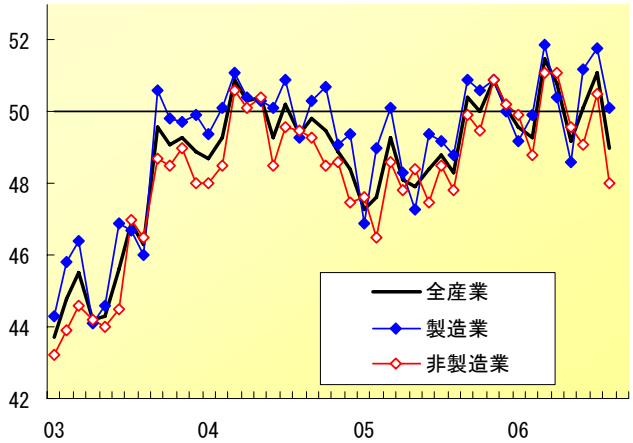
第一生命経済研究所　経済調査部
担当　副主任エコノミスト　長谷山　則昭
ＴＥＬ：03-5221-4525

中小企業　売上ＤＩ（季調値）



（出所：中小企業景況調査、中小企業金融公庫）

景況判断指数（中小企業月次景況観測）



出所：商工中金

○ 中小企業の業況は緩やかながらも改善傾向

中小企業金融公庫から公表された「中小企業景況調査」では、８月の売上ＤＩは2.5と前月から0.3ポイント上昇し、増加と減少の分岐点であるゼロを11ヵ月連続で上回った。

一方、商工中金から本日公表された「中小企業月次景況観測」では、８月の景況判断指数(1000社調査)は49.0(７月51.1)となり、「好転」「悪化」の分岐点となる50を３ヵ月ぶりに下回った。

ヘッドラインは分かれたが、全体としてみれば中小企業の業況は緩やかながらも改善傾向にあるとの判断は維持する。景況判断指数が低下した「中小企業月次景況観測」でも売上は７月実績で前年比＋4.1%、８月見込みも同＋2.5%と増加傾向が続いている。９月予測では景況判断が再び50を超えていることも踏まえれば、「中小企業月次景況観測」における中小企業の景況判断の低下は一時的と考える。

○ 製造業の売上の伸びは鈍化してくる見込みだが、卸・小売などの消費関連は今後持ち直し

先行きについても中小企業の業況は緩やかな改善が続くと考えられるが、業種によってまちまちとなることが見込まれる。「中小企業月次景況観測」をもとに業種別に売上動向を見れば、製造業では今後伸びが鈍化してくる可能性が高い。全般的に鈍化しているが、特に目立ったのは９月の一般機械や輸送用機械の売上の伸びの鈍化である。本日公表された鉱工業生産指数でも９月は同分野で大幅な減産となっていたが、一般機械は内外需ともに設備投資が堅調なこと、輸送機械も日本車は高い競争力を有していることから自動車輸出が急減速することは見込みにくいため、それほど心配する必要はないと思われる。ただし、米国景気の減速から輸出の増加ペースが鈍化してくることなどを踏まえれば、売上の伸びがどんどん加速することも見込みにくい。中小企業製造業の業況の改善は緩やかなものにとどまると考えられる。

一方、非製造業では卸売、小売の改善によって堅調な推移となろう。特に小売については、天候不順もあって７月まで４ヵ月連続で前年比マイナスが続いていたが、８、９月は前年を上回ってくる見込みだ。雇用・所得環境は改善が続いており、個人消費関連分野での業況は持ち直してくると考えられる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。